

(19)日本国特許庁（J P）

(12) 公 開 特 許 公 報 （ A ）

(11)特許出願公開番号

特開平6-57761

(43)公開日 平成 6 年(1994) 3 月 1 日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

E 0 2 D 27/01

識別記号

1 0 1 Z

庁内整理番号

7014-2D

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 3 (全 6 頁)

(21)出願番号

特願平4-209366

(22)出願日

平成 4 年(1992) 8 月 6 日

(71)出願人 000114086

ミサワホーム株式会社

東京都杉並区高井戸東 2 丁目 4 番 5 号

(72)発明者 堀口 幸兵

東京都杉並区高井戸東 2 丁目 4 番 5 号 ミ  
サワホーム株式会社内

(72)発明者 山内 広志

東京都杉並区高井戸東 2 丁目 4 番 5 号 ミ  
サワホーム株式会社内

(74)代理人 弁理士 荒船 博司

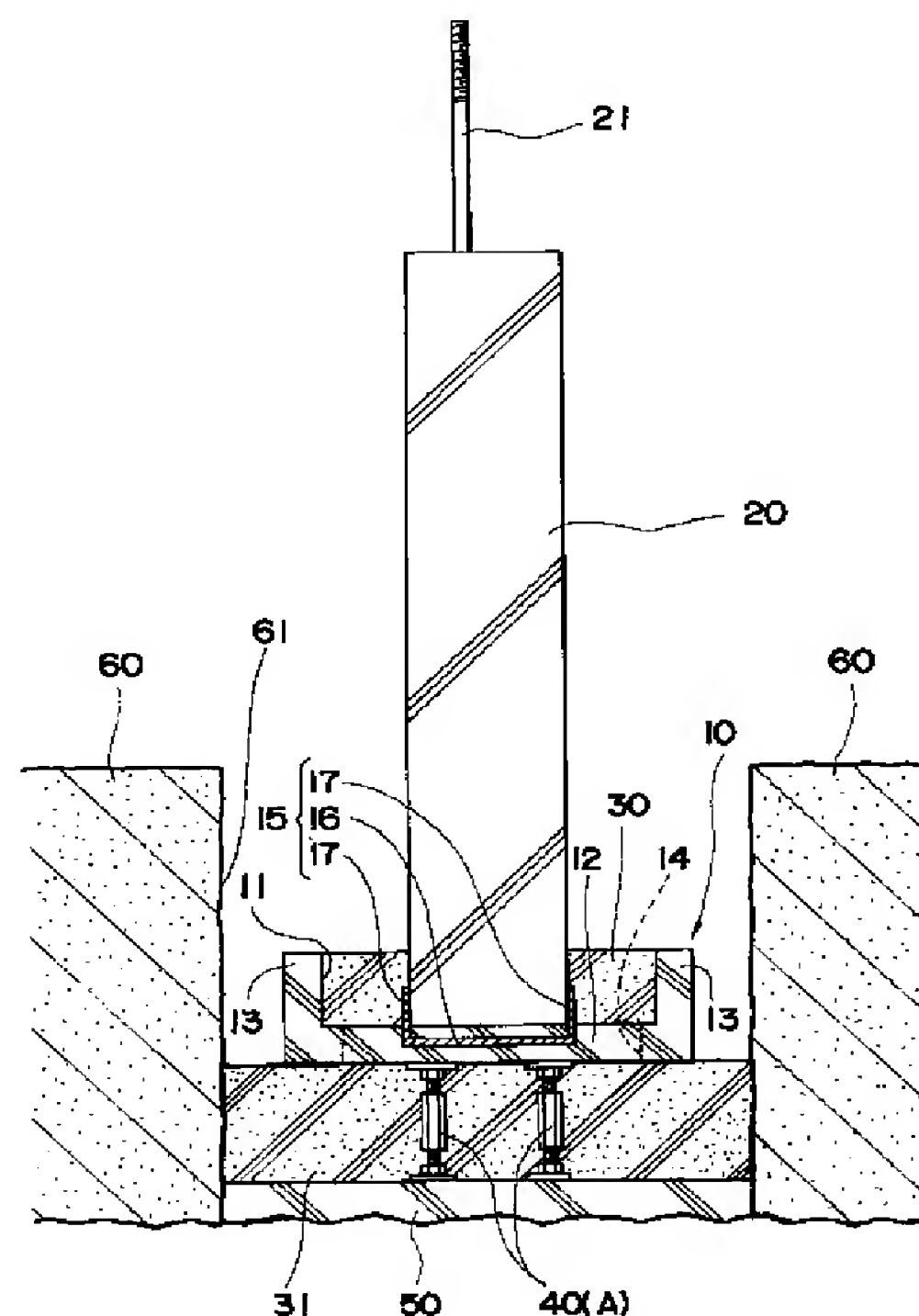
(54)【発明の名称】 プレキャストコンクリート基礎

(57)【要約】

【目的】 容易に構築することができるプレキャストコンクリート基礎を提供する。

【構成】 このプレキャストコンクリート基礎 1 は、フーチング部材 1 0 上に載置された立上り部材 2 0 が現場打ちコンクリート 3 0 によって一体化されて、構築されている。フーチング部材 1 0 には高さレベルおよび水平レベルを調整するレベル調整手段 A が一体に設けられている。レベル調整手段 A は、相互に逆ねじとなる雄ねじ部 4 1 , 4 2 に外筒部 4 3 が螺合されてなるターンバックル式のジャッキ部材 4 0 で構成されている。ジャッキ部材 4 0 は、フーチング部材 1 0 の少なくとも四隅部近傍の下側に夫々配設されている。

【効果】 レベル調整手段によりフーチング部材のレベル調整を簡便に行うことができるので、プレキャストコンクリート基礎の構築が極めて容易となる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 プレキャストコンクリート製のフーチング部材と、プレキャストコンクリート製の立上り部材とを一体化させて構築されるプレキャストコンクリート基礎であって、前記フーチング部材に同フーチング部材のレベルを調整するレベル調整手段が一体に設けられていることを特徴とするプレキャストコンクリート基礎。

【請求項2】 前記レベル調整手段が、前記フーチング部材の下側で同フーチング部材の少なくとも四隅部近傍に夫々配設された伸縮可能なジャッキ部材で構成されていることを特徴とする請求項1記載のプレキャストコンクリート基礎。

【請求項3】 前記レベル調整手段が、前記フーチング部材の少なくとも四隅部近傍に夫々配設され、且つ、前記フーチング部材の下側に突出するボルト部材に、該ボルト部材の先端よりもボルト部材の軸線の延長上に進退可能なナット部材が螺合されて構成されていることを特徴とする請求項1記載のプレキャストコンクリート基礎。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明はプレキャストコンクリート製のフーチング部材とプレキャストコンクリート製の立上り部材とを一体化させてなるプレキャストコンクリート基礎に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、プレキャストコンクリート基礎として、例えば実開平1-61242号公報に記載されているように、コンクリート充填部を有する凹状をしたプレキャストコンクリート製のフーチング部材（ベース体）と、底板を有するプレキャストコンクリート製の立上り部材（立上り体）とを個別に成型し、底板に設けられた高さ調整ねじによってフーチング部材上に乗せた立上り部材の天端レベル調整を行うとともに、コンクリート充填部に打設した現場打ちコンクリートに立上り部材の下端部を埋設させることによって、フーチング部材と立上り部材とを一体化させるようにしたものが知られている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記した実開平1-61242号公報記載のプレキャストコンクリート基礎では、フーチング部材のレベル調整に付いて何等配慮されていないため、フーチング部材を所定の高さレベルおよび水平レベルに合わせて据え付けるために、根切り底上に敷き詰める割栗石や根切り底上に打設する捨てコンクリートなどの天端を設計寸法通りに高精度に仕上げるか、或はフーチング部材の下にスペーサを介装させ、そのスペーサの厚さを微調整しなければならず、プレキャストコンクリート基礎の構築に多大な手間を要するという問題点があった。

【0004】この発明は、上記問題点を解決するためになされたもので、容易に構築することができるプレキャストコンクリート基礎を提供することを目的としている。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明に係るプレキャストコンクリート基礎においては、プレキャストコンクリート製のフーチング部材と、プレキャストコンクリート製の立上り部材とを一体化させて構築されるプレキャストコンクリート基礎であって、前記フーチング部材に同フーチング部材のレベルを調整するレベル調整手段が一体に設けられている構成とした。

【0006】前記レベル調整手段を、前記フーチング部材の下側で同フーチング部材の少なくとも四隅部近傍に夫々配設された伸縮可能なジャッキ部材で構成してもよいし、また、前記フーチング部材の少なくとも四隅部近傍に夫々配設され、且つ、前記フーチング部材の下側に突出するボルト部材に、該ボルト部材の先端よりもボルト部材の軸線の延長上に進退可能なナット部材が螺合された構成としてもよい。

## 【0007】

【作用】上記手段によれば、フーチング部材に該フーチング部材のレベルを調整するレベル調整手段が一体に設けられているため、フーチング部材を据え付ける基礎下地部分、すなわち割栗石や捨てコンクリートなどの高さレベルおよび水平レベルの仕上げ精度如何によらず、レベル調整手段によりフーチング部材のレベル調整を簡便に行うことができ、フーチング部材の据付けが容易となる。

【0008】また、前記レベル調整手段が、伸縮可能なジャッキ部材、或はボルト部材とそれに進退可能に螺合されたナット部材でできているため、その構成が極めて簡素である。

## 【0009】

【実施例】本発明に係るプレキャストコンクリート基礎の一実施例を図1乃至図3に示し、以下に説明する。それらのうち、図1はプレキャストコンクリート基礎の縦断面図、図2はプレキャストコンクリート基礎のフーチング部材の要部斜視図、図3はフーチング部材の要部縦断面図、図4は構築途中におけるプレキャストコンクリート基礎の要部断面斜視図である。

【0010】このプレキャストコンクリート基礎1は、図1に示すように、プレキャストコンクリート製のフーチング部材10上に、プレキャストコンクリート製の立上り部材20が載置され、それらフーチング部材10と立上り部材20とが現場打ちコンクリート30によって一体化されて、構築されている。そして、フーチング部材10には該フーチング部材10の高さレベルおよび水平レベルを調整するレベル調整手段Aが一体に設けられ

10

20

30

40

50

ている。このレベル調整手段Aは、伸縮可能なジャッキ部材40で構成されている。

【0011】前記フーチング部材10は、図2に示すように、プレキャストコンクリート基礎1のフーチング部の一部であるとともに、現場打ちコンクリート30を打設する際の捨て型枠も兼ねている。そして、現場打ちコンクリート30を充填させるコンクリート充填部11が、フーチング部材10の底壁部12と該底壁部12の長辺端縁部に起立させられた側壁部13、13とにより凹状に形成されている。この底壁部12には、その長手方向に沿って適当な間隔おきに開口部14が設けられていて、フーチング部材10の下側に現場打ちコンクリート30を行き渡らせるようになっている(図1参照)。この開口部14は、フーチング部材10の軽量化にも寄与している。また、底壁部12には、立上り部材20を据え付ける際の位置決めとなる位置決め部15が、長手方向に沿って少なくとも2箇所に設けられている。位置決め部15は、例えば、略コ字状に折曲されていて、底壁部12内に埋め込まれるアンカー部16および立上り部材20を丁度挟むように起立させられた一对の起立部17、17からなる。位置決め部15は板状体でできていてもよいし、棒状体でできていてもよい。

【0012】なお、図示省略するが、フーチング部材10の内部には鉄筋が配筋されているのはいうまでもない。

【0013】前記立上り部材20は、図1に示すように、帯状に成型された長尺物である。そして、図示省略するが、その内部には鉄筋が配筋されているのはいうまでもない。また、その上部にはアンカーボルト21の基端部が埋設されている。或は、後埋め形式のアンカーボルトを埋設するための所謂シース管と呼ばれる筒が埋設されていてもよい。

【0014】前記ジャッキ部材40は、図3に示すように、前記フーチング部材10の少なくとも四隅部近傍の下側に夫々配設されていて、例えばターンバックル式になっている。すなわち、ジャッキ部材40は、相互に逆ねじとなる雄ねじ部41、42に、それら雄ねじ部41、42を同一軸線上で連結する外筒部43が螺合されてできている。この外筒部43を回転させる向きによって、ジャッキ部材40の長さが伸縮させられるようになっている。

【0015】雄ねじ部41は、ナット部44を介して止着板部45と一体化されている。そして、図示省略したが、例えば底壁部12に埋設された埋込ナットに止着板部45を介してボルトを螺合させることによって、底壁部12に止着板部45が止着されている。また、雄ねじ部42は、ナット部46を介して、ジャッキ部材40を受ける捨てコンクリート50(図1参照)との当接面積を大きくして安定性を向上させるとともに捨てコンクリート50への面圧を分散させる当て板部47と一体化さ

れている。

【0016】次に、プレキャストコンクリート基礎1の構築手順に付いて説明する。まず、地盤60を掘削して根切り部61を作り(図1参照)、その根切り底で付き固めた割栗石および目つぶし砂利(図示省略)上に打設した捨てコンクリート50上にフーチング部材10を据え付ける。この際、水糸等を使い、フーチング部材10が所定の高さレベルおよび水平レベルになるように、外筒部43を回して各ジャッキ部材40、…の伸縮量を微調整する。

【0017】しかる後、フーチング部材10上に立上り部材20を乗せる。この際、既に位置決めされたフーチング部材10の位置をずらさないように注意する。ここで、フーチング部材10のレベルが合っていない場合には、各ジャッキ部材40、…による高さ調整およびフーチング部材10の据付け位置の調整を再度行う。ここまでの状態が図4に示されている。フーチング部材10の位置ずれを防ぐために、捨てコンクリート50に各ジャッキ部材40、…の当て板部47をコンクリート釘等で止着するようにしてもよい。この場合には、当て板部47に釘通し孔が設けられているとよい。

【0018】最後に、図1に示すように、フーチング部材10のコンクリート充填部11に現場打ちコンクリート30を流し込む。この際、フーチング部材10の下側にも開口部14を介して現場打ちコンクリート30を十分に行き渡らせ、ジャッキ部材40を埋め込む支持コンクリート部31を設けるように注意する。そして、現場打ちコンクリート30および支持コンクリート部31が硬化すれば、プレキャストコンクリート基礎1が完成する。プレキャストコンクリート基礎1の完成後、根切り部61を埋め戻す。

【0019】上記実施例によれば、フーチング部材10にレベル調整手段Aが一体に設けられているため、フーチング部材10を据え付ける、捨てコンクリート50などで構成する基礎下地部分の高さレベルおよび水平レベルの仕上げ精度如何によらず、フーチング部材10のレベル調整を簡便に行うことができるので、フーチング部材10を所定位置に容易に据え付けることができるとともに、立上り部材20のレベル調整を行わなくても済み、プレキャストコンクリート基礎1を極めて容易に構築することができる。

【0020】また、レベル調整手段Aがジャッキ部材40でできているため、その構成が極めて簡素であり、ジャッキ部材40を一体として有するフーチング部材10の製造が容易であるとともに、レベル調整作業の作業性に優れる。

【0021】なお、上記実施例においては、ジャッキ部材40はターンバックル式になっているとしたが、これに限定されるものではなく、例えば油圧式や水圧式など、伸縮可能であれば如何なる形式のジャッキでもよ

10

20

30

40

50



い。

【0022】また、ジャッキ部材40の数およびその配設箇所等は、上記実施例に限られるものではない。

【0023】さらに、上記実施例においては、ジャッキ部材40は、底壁部12に、該底壁部12に埋設された埋込ナットにボルトを螺合させることによって、止着板部45を介して一体に設けられているとしたが、これに限定されるものではなく、底壁部12に埋込ボルトを埋設し、この埋込ボルトにナットを螺合させるようにしてもよいのはいうまでもないし、ボルト・ナットの代わりにコンクリート釘などを用いてもよい。

【0024】さらにまた、ジャッキ部材40の雄ねじ部41の基端部をアンカーボルトのように底壁部12に埋め込んでもよい。このようにすれば、ナット部44および止着板部45などが不要となり、ジャッキ部材40を有するフーチング部材10の構成が簡素になり、その製造が容易となる。

【0025】また、上記実施例においては、レベル調整手段Aはジャッキ部材40で構成されているとしたが、これに限定されるものではなく、例えば図5および図6に示すように、レベル調整手段Aをボルト70（ボルト部材）およびこのボルト70に螺合させた長ナット71（ナット部材）で構成してもよい。ここで、ボルト70の基端部はアンカーボルトのように底壁部12に埋め込まれている。

【0026】

【発明の効果】本発明に係るプレキャストコンクリート基礎によれば、フーチング部材に該フーチング部材のレベルを調整するレベル調整手段が一体に設けられているため、フーチング部材を据え付ける基礎下地部分、すなわち割栗石や捨てコンクリートなどの高さレベルおよび水平レベルの仕上げ精度如何によらず、レベル調整手段

によりフーチング部材のレベル調整を簡便に行うことができるので、フーチング部材を所定位置に容易に据え付けることができ、プレキャストコンクリート基礎の構築が極めて容易となる。

【0027】また、前記レベル調整手段が、伸縮可能なジャッキ部材、或はボルト部材とそれに進退可能に螺合されたナット部材でできているため、その構成が極めて簡素であり、レベル調整手段を一体として有するフーチング部材の製造が容易であるとともに、レベル調整作業の作業性に優れる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例におけるプレキャストコンクリート基礎の縦断面図である。

【図2】プレキャストコンクリート基礎のフーチング部材の要部斜視図である。

【図3】フーチング部材の要部縦断面図である。

【図4】構築途中におけるプレキャストコンクリート基礎の要部断面斜視図である。

【図5】プレキャストコンクリート基礎のレベル調整手段の変形例を示す構築途中におけるプレキャストコンクリート基礎の要部断面斜視図である。

【図6】レベル調整手段の変形例を示すフーチング部材の要部縦断面図である。

【符号の説明】

A レベル調整手段

1 プレキャストコンクリート基礎

10 フーチング部材

20 立上り部材

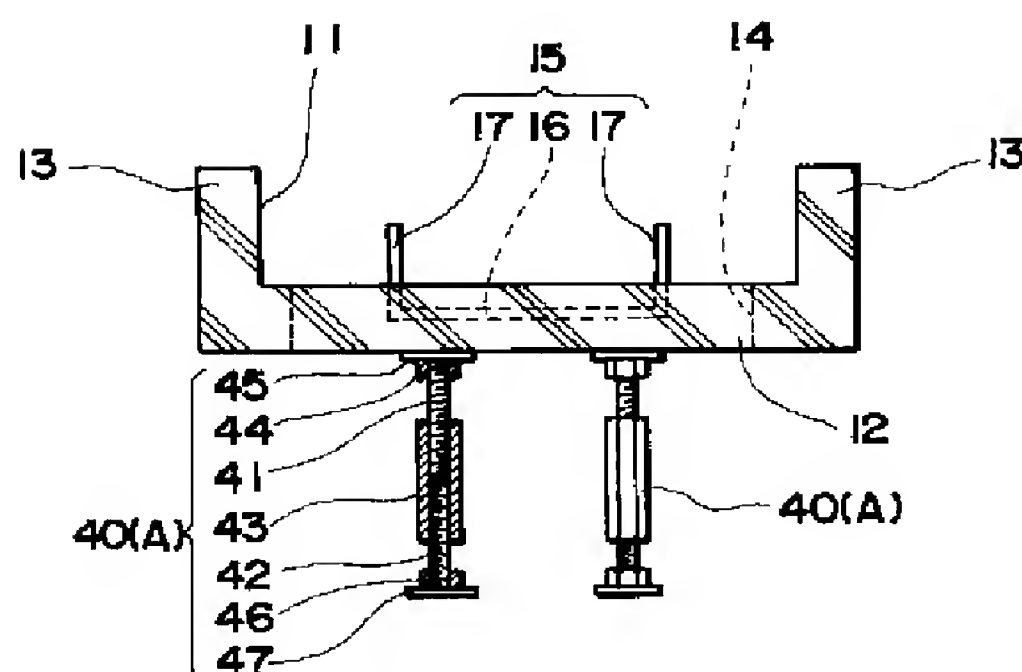
40 ジャッキ部材

70 ボルト（ボルト部材）

71 長ナット（ナット部材）

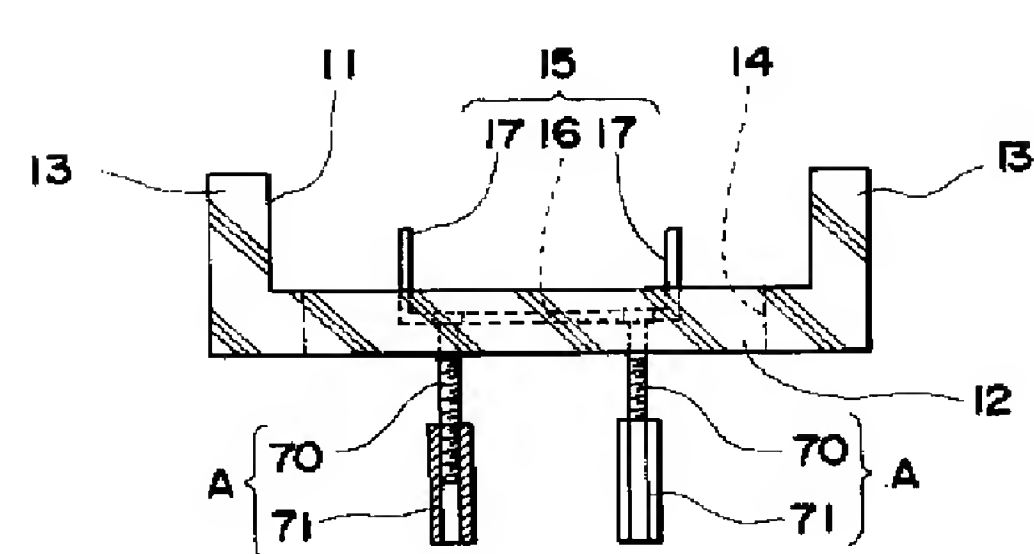
【図3】

10

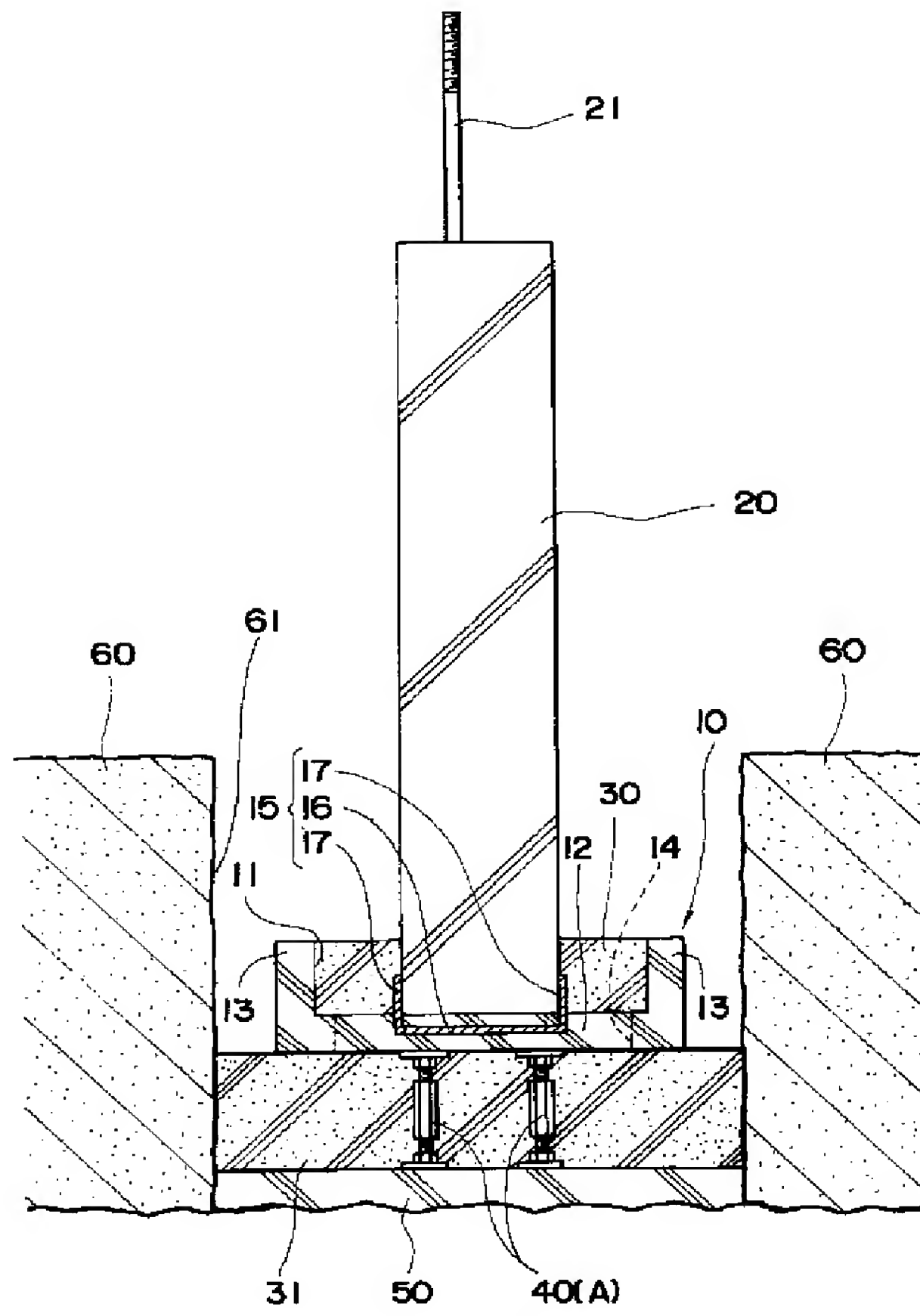


【図6】

10

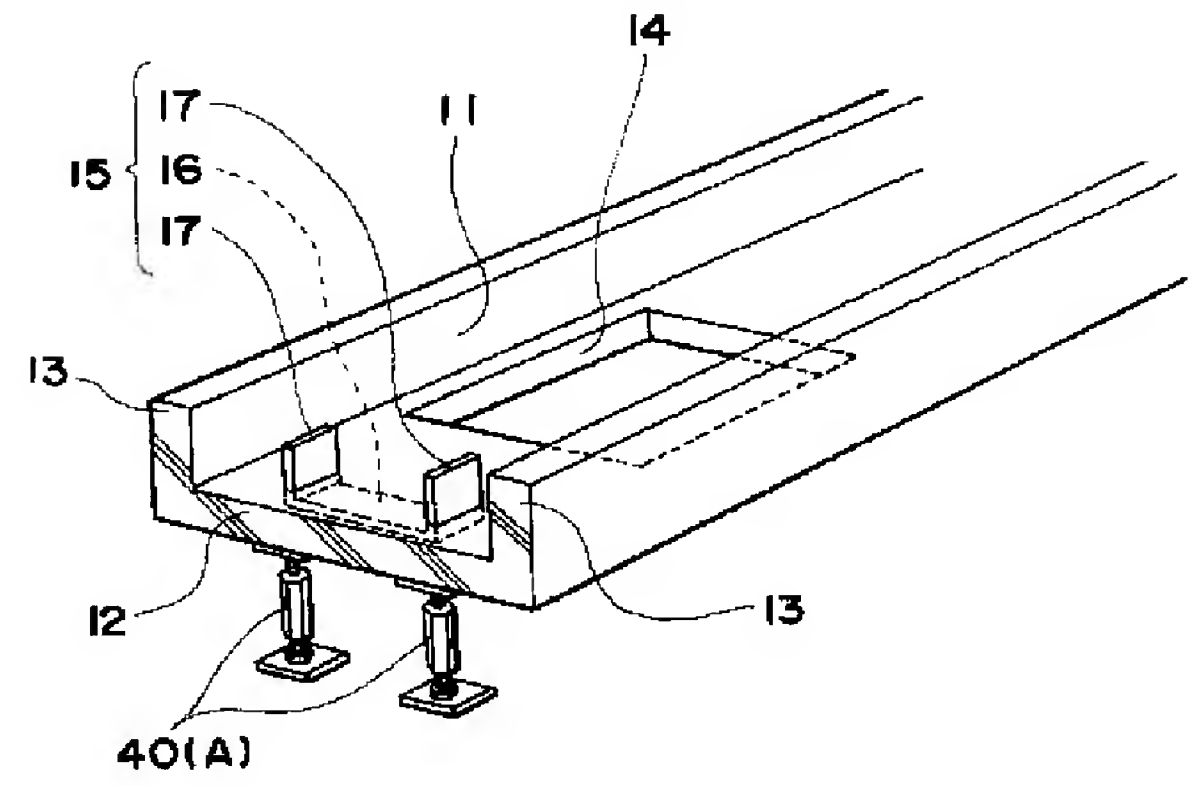


【図1】

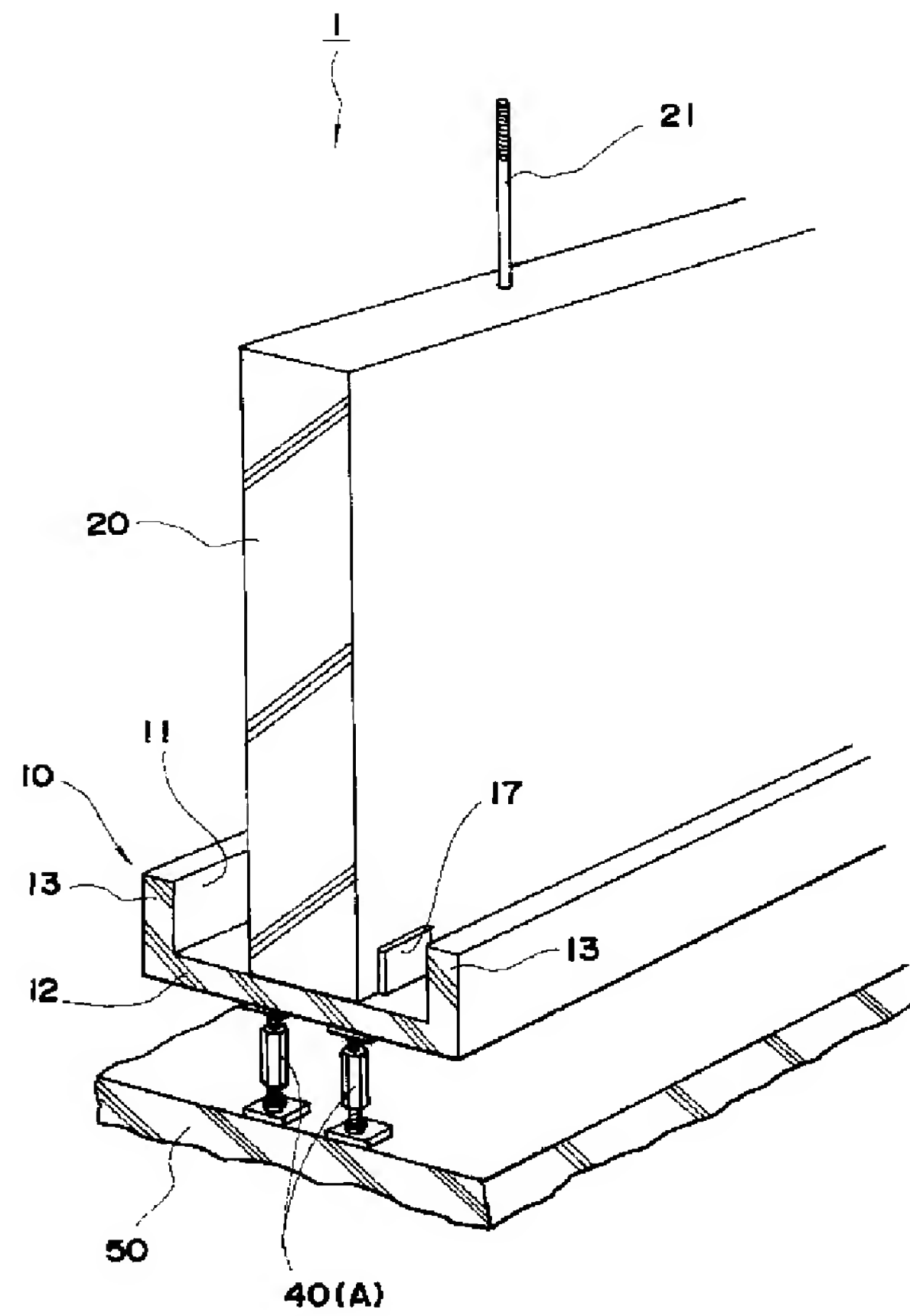


【図2】

10



【図4】



【例 5】

